

日本犯罪社会学会第39回年次大会のお知らせ

(大会概要)

日時:2012年10月27日(土)10時~28日(日)17時30分 会場:一橋大学(東京都国立市)国立西キャンパス本館

参加費: 会員 2,000円・非会員 3,000円 /学生一律(院生含む)1,000円

10月27日(土)10:00~18:00

大会受付:本館2階23番教室

会員控室:22教室

自由報告(10:00~13:00)

自由報告A 26番教室

自由報告B 28番教室

自由報告C 36番教室

自由報告D 38番教室

テーマセッション(14:20~17:20)開場14:00~

A 犯罪不安と刑事司法の信頼(津島昌寛・龍谷大学)

B 家庭裁判所調査官による社会調査のあり方(岡田行雄・熊本大学)

C 性犯罪裁判員裁判の課題—『市民の目線』の与えるインパクトは?(平山真理・白鷗大学)

D 刑の一部執行猶予~制度導入による現場への影響(正木祐史・静岡大学)

10月28日(日)9:30~17:30

大会受付:本館2階23番教室

会員控室22番教室

テーマセッション(9:30~12:30)開場9:10~

E 少年事件の裁判員裁判一向を伝えるのか、何が伝わるのか
(武内謙治・九州大学)

F 少年院法改正と少年院の処遇(横山実・國學院大学)

G 被疑者・被告人となった触法高齢・障害者への支援と処遇
[司法と福祉の連携](浜井浩一・龍谷大学)

H 女性犯罪者の処遇と刑罰の意味(矢野恵美・琉球大学)

シンポジウム(13:50~17:20)21番教室

裁判員制度は刑事司法をどう変えるのか?

パネリスト:加藤学(裁判官) 稲川龍也(検察官) 神山啓史(弁護士)

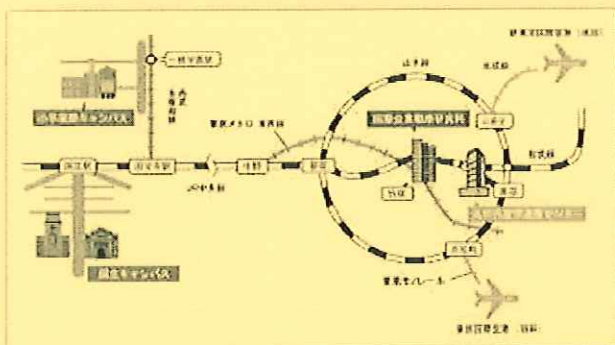
コメンテータ:

白取祐司(北海道大学) 土井隆義(筑波大学) 浜井浩一(龍谷大学)

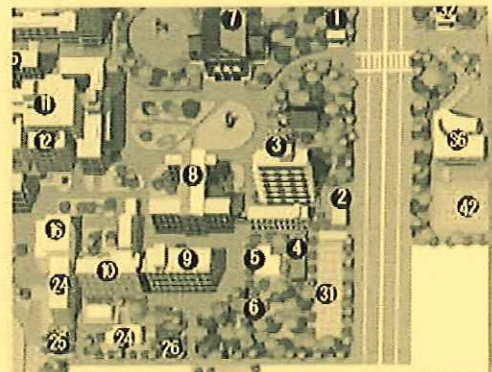
総括発言:河合幹雄(桐蔭横浜大学)

コーディネイタ:葛野尋之(一橋大学)

会場までの交通機関



構内図



東京駅から中央線(快速)国立駅下車徒歩5分

① 番より入場し会場は⑧番の本館2階(受付)

[お問い合わせ先]日本犯罪社会学会 研究委員会 ncs.kenkyu@gmail.com

裁判員制度は刑事司法を どう変えるか？

《パネリスト》

加藤学 (裁判官)

稲川龍也 (検察官)

神山啓史 (弁護士)

《コメンテータ》

白取祐司 (北海道大学)

土井隆義 (筑波大学)

浜井浩一 (龍谷大学)

《総括発言》河合幹雄 (桐蔭横浜大学)

《コーディネイタ》葛野尋之 (一橋大学)

裁判員制度が始動して3年、刑事司法が大きく変わろうとしています。

刑事裁判により解明される「真相」の意味、刑事司法への社会的期待や

その社会的機能、捜査・取調べのあり方、公訴提起の基準、

裁判後の犯罪者処遇などについて、裁判員制度の影響とその意義を、

裁判員裁判の実際を踏まえて考えます。

日時：2012年10月28日(日) 13:50~17:20

(開場予定時刻：13:30)

会場：一橋大学国立西キャンパス 本館21番教室

参加費：会員2,000円 非会員3,000円 学生一律1,000円

※本シンポジウムは、日本犯罪社会学会年次大会の1つであるため、

上記参加費で他のセッションのご聴講・ご参加も出来ます。

.....
[お問い合わせ先]日本犯罪社会学会研究委員会 (ncs.kenkyu@gmail.com)